

「太陽光発電」騒動記

(2013)

2012・8月、我が家家の「屋根の上発電所（5.32kwh）」が稼働を開始した。僕なりの試算だと投資金額の回収に7年も掛からない。

高金利の定期預金よりもお得、高配当の投資信託より安全の積りだが……。



東日本大震災により東電福島第一原発が未曾有の放射能事故を発生、周辺の市町村は廃墟と化し、近隣住民達は故郷を奪われ、財産・仕事を奪われ、家族達は分断され、国と東電の充分の援助も得られぬままに、21世紀の難民となってしまった。日本という国はこんなにも経済的に・政治的に貧しい国だったのか？

以後1年、日本中が「原発の危険性」と「経済論理」の狭間を巡って、国を二分する大論争が続いている。そして1年後の2012年春、遂に日本の約50基の原発の全てが約60日間停止した。国を挙げて今や、代替エネルギー（揚水・地熱・風力・太陽光・海洋温度差・深海圧力・

波力発電、バイオマス、雪氷熱利用、メタンハイドレード、蓄電池、コージェネ・・・等など）に対する関心が一挙に高まりつつある。

今さら原子力には頼れなくなつた各電力会社は、代替え燃料の高騰、既存原電の維持費・処理費などで完全に経営疲弊、電力不足、電気料金値上げの方向へ動かざるを得なくなつてきた。しばらくはこの穴埋めを国民に頼らざるを得ない状況である。幸い我慢強く・賢い日本人の事・・・恐らくこの苦境も難なく乗り切つてしまふのだろう。

一方お国は他人事の様な顔で、責任のなすりあいを繰り返すばかり、そして税金を利用しての補助金垂れ流し政策は今や花盛りである。危機の今、この国と国民の知性と底力が試される事となる。

電気料金は間違いなく値上がりの傾向にあるし、一方お国の政策も巨額の補助金を投入し、エネルギー政策の大転換を進めている。そのうちの一つに「再生可能エネルギーの固定価格買取り制度」が、2012・7月を以て本格的に動き始めた。

この動きを敏感に感じ取つた心ある事業者達は遊休地を利用してのメガソーラー事業に続々と着手し始めた。一方では、一般家庭の太陽光発電（10kWh未満）の導入もすさまじい勢いで促進されつつある。

さてお国のおこぼれの内容であるが・・・

①工事費に対し「補助金」（3・5万円／kW）、他に各自治体に

による補助金（宇都市の場合一律・10万円）

②余った電気は、通常の電気料（28円／kwh）より高い（42円／kwh）で10年間の買い取りを約束し

③その差額を国の補助と全ての契約家庭に平均して割り当てる

現時点では、既工事契約者には買い取り価格（42円／kwh）と期間（10年間）は約束されているが、恐らく自然エネルギー先進国ドイツの例にある様に、このままの高額の買い取り価格はそんな長くは続かないだろうし、10年間という約束も出来なくなるだろう。おそらく5年を待たず破綻するのではないかと僕は危惧している。案の定、先日の「2012経済財政白書」では、【太陽光発電などの普及促進を目指す再生可能エネルギーの買い取り制度について、電力会社が太陽光や風力による電気を家庭や事業者から高く買い取る仕組みは、普及が進むほど需要側の一般家庭や企業の電気料金が上がる】・・・として、買い取り価格の設定・改定には公正を期すよう警鐘を鳴らしたばかりだ、「白書」としては異例の内容であった

そんな中、今のうちに我が家もこの時流に乗らない手はない。幸いにも我が家は単純な片流れ屋根（80m²・南向き、2・5寸勾配）という、いかにも太陽光発電を40年間待っていたかの様な造りであり、発電に必要な日射量も国内では中国・九州地方が圧倒的に有利である。

さて「業者の選定」だが知り合の代理店・工事店は職業柄たくさん知っているが、ここで少々迷ってしまう。・・・中には「近所（3軒お隣）

には、太陽光発電を取り扱う地元総合商社の社長さんの自宅（屋根には自社のパネル満載）もあり同じ自治会の同じ班仲間なのだが……？

迷っていてもしょうが無く、ふとネットで太陽光発電の勉強をしている時「太陽光発電見積りナビ」なるものを知り、「自宅の住所・メールアドレス・屋根の概要・・・等など」、を打ち込んでメールすれば、近辺の業者さん5社余りが概算見積り、現地調査、打ち合わせにやって来てくれる。我が家には市内業者さん始め、北九州市からも防府市からも来て頂いた。初めての業者さんも幸いな事に信頼のおけそうな会社ばかりだった。何よりも僕にとっては初めての分野の仕様・価格であり、予習・勉強のためには最良のチャンスとなつた。又、5社も揃えば中には相当頑張った価格提示もあり、価格折衝の際の参考にもなつたし、又国の補助金の他に、市の補助金（10万円）も別にある事も知った。（但し、市内に所在する業者施工に限る）。お蔭で本命の市内業者さんとの交渉も順調に進み、7月中旬「申請書提出（国・電力会社）」に持ち込んだ

つい最近の事だが、このネットによる見積りも更に格段の進歩を遂げ、「Goo-e情報」（衛星写真により、場所・屋根面積・設置面積・屋根の向き等が一目瞭然）を利用しての正確な見積りが出来るシステムを考え出した業者さんまでが現れた様だが、肝心の「屋根の材質・仕様」迄は見極められないと思うが。

一方では太陽光発電に当たっての注意点や短所がここぞとばかりにネ

ツト上を賑わしている。曰く、*値段がまだまだ高すぎる、*電圧抑制問題（買い取り電力が安定していない）、*年々の発電効率の低下、*家電製品に悪影響（全くのデマ）、*ずさんな工事による雨漏り、*ボッタクリに注意・・・など等らしいが、我が家の場合は一応クリヤーしたと思っている。

パネルは今や各メーカー・海外製品等がキラ星の「とく参入しているが、大きく分ければ多結晶（長い実績があり比較的安価）○・単結晶（発電効率が良いが高価）という大別で悩む所だが、屋根の広さにゆとりがあるのなら悩むことなく多結晶・・・のようだ。

必要な発電量だが、合計発電量が10kwh未満なら投資資金の許す限り、多ければ多いほどお得という事だ！

毎日、電力モニターやパソコンに表示される「今日の発電量・消費量・売電料・・・」を眺め一人、ほくそ笑むのが日課となってしまった。